



除菌・抗菌・消毒 ところが違うの？

No.31

現在私達の身の回りには、実に多くの「抗菌」「除菌」「消毒」などの文字の入った商品があふれており、その売れ行きも好調なようです。

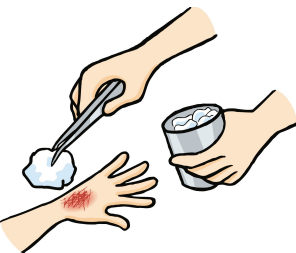
みんな「清潔な」「バイ菌のいない」というイメージで受け止められますが、実はその意味には違いがあるのを知っていますか？

◎殺菌(さっきん)と滅菌(めっきん)

殺菌は文字通り菌を殺す事ですが、全ての微生物が死滅した状態ではありません。「殺菌済み」とは「菌がない」状態ではなく「ある程度取り除いた」状態を表しています。一方、滅菌とは、有害・無害を問わず存在する全ての微生物を死滅または除菌する事です。医療器具(歯医者で使うミラーやピンセットなども含まれます)は原則的に全てこの処理をします。医療機関で用いる器具や器材は院内感染の原因となりうるため、完璧な微生物対策を行います。

◎消毒(しょうどく)

存在する病原性のある微生物を人体に影響の無い程度まで減らすことで殺菌と似たような概念です



◎除菌(じょきん)

微生物の数を減らすことで「水で手を洗う」ことから「ろ過装置で微生物を除去する」ことまで、広範囲にわたる概念です。微生物を殺すのではなく除去するので「殺菌」とは異なりますが、「ある程度取り除いた状態」という意味では殺菌や消毒と似たような概念です。ブラッシングは広い意味でこの除菌に当たる行為です。

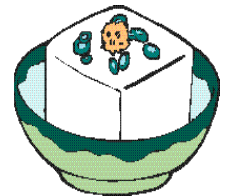
このほかにも静菌(せいきん)・抗菌(こうきん)・防カビ(ぼうかび)などの言葉もありますが、どれも増殖を抑えるという意味で、対象となる微生物が、細菌であったり、真菌(かび)であったりという違いが

あります。このように似たような言葉であっても意味合いには大きな違いがあるのです。

さて口の中に目を向けてみましょう。ここにも多くの微生物が存在しています。そこは温度・湿度・栄養といった微生物にとって非常に住みやすい環境で、多種多様な微生物が存在しています。その一部の微生物が悪さをして、むし歯や歯周病を引き起こします。また、肺炎を起こした人の肺の中には口の中の細菌が存在していることが、最近の研究でわかりました。このように、口の中にも病気を引き起こすような有害な細菌も存在しています。

「清潔」が一つのステータスとなっている現在、「除菌」や「殺菌」「抗菌」などの言葉は私達消費者の心をくすぐります。しかし太古の昔より人間は微生物と共存してきていることも忘れてはなりません。

日本人の食文化は、みそ・しょう油・豆腐・納豆・日本酒漬物・酢などの発酵(微生物による分解や合成など)食品の文化で、細菌の力をかりて食物をつくりました。また、青カビからペニシリンのような薬品をつくったり、大腸菌の遺伝子を利用して薬品の大量生産も行われています。ビタミンの合成や有害物質の分解などをして



くれる菌もいれば、私達の腸内にも消化吸収を助ける細菌が存在しているのです。

この様に微生物には、有害・無害・有益なものがあることを忘れてはなりません。いたずらに「殺菌」「除菌」などをすることは私達の健康被害に結びつく可能性もあるのです。



社団法人

柏歯科医師会

Http://www.kamukamu.or.jp

Email:kda@cc.rim.or.jp

